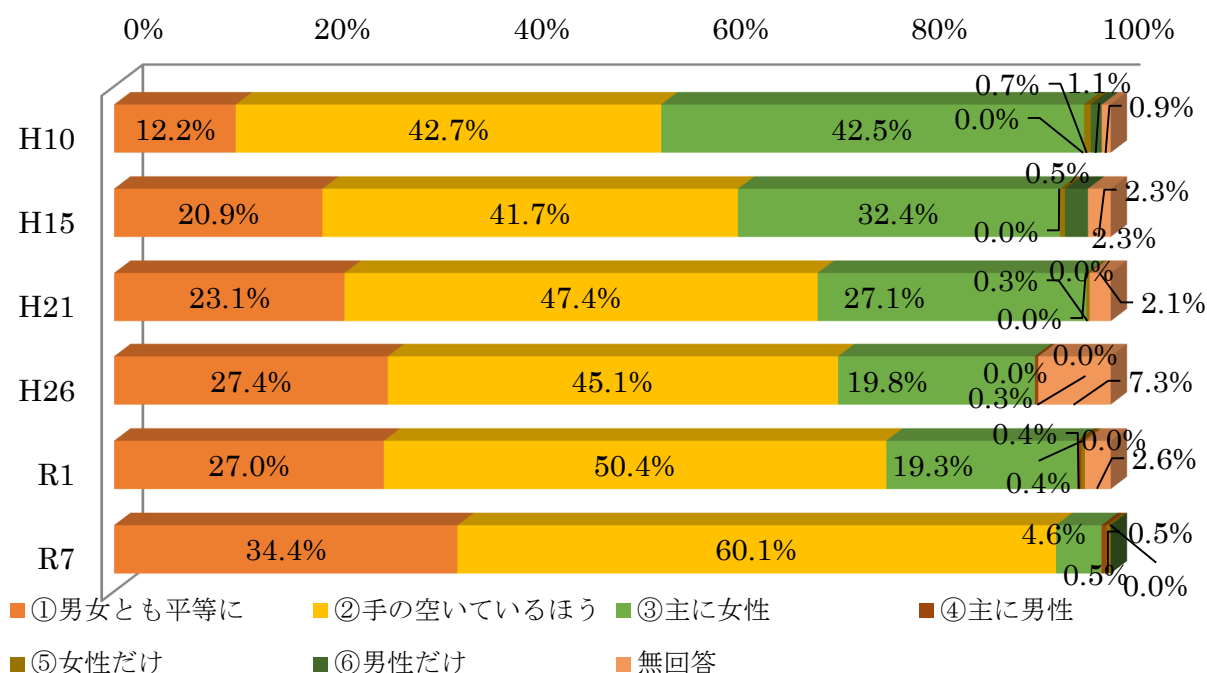


2. 家庭生活、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問2 家事や育児の役割分担について、あなたはどのように考えますか？

- ① 男女とも平等にするのがよい
- ② 手の空いているほうがやればよい
- ③ 主に女性がやり、男性は手伝う程度でよい
- ④ 主に男性がやり、女性は手伝う程度でよい
- ⑤ 女性だけがやるべき
- ⑥ 男性だけがやるべき

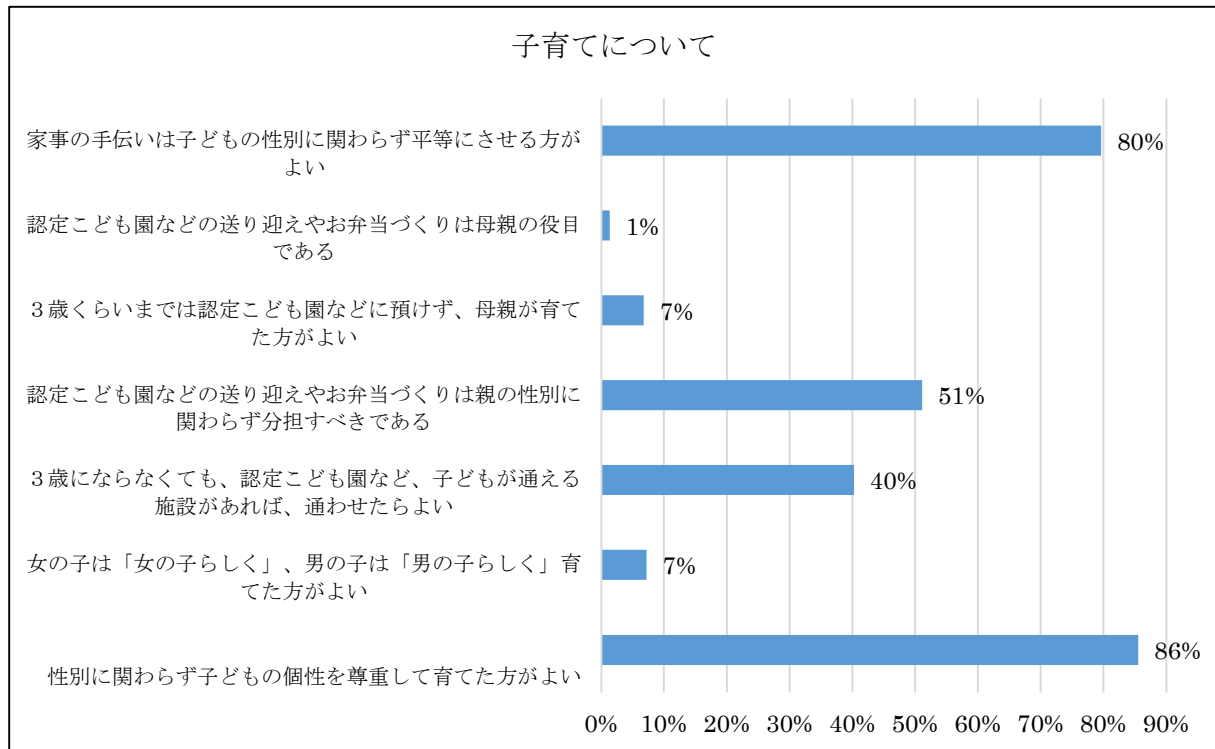
【全体(経年変化)】



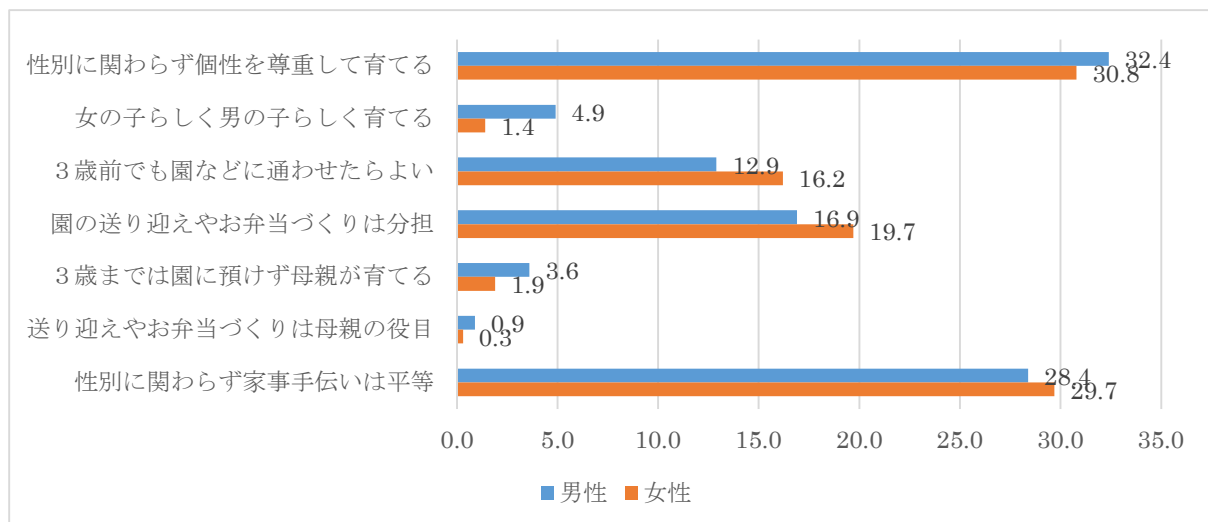
調査開始以降、「主に女性」が大きく低下し「男女とも平等に」及び「手の空いているほう」が増加。令和7年度では「手の空いているほう」60.1%と「男女とも平等に」34.4%がともに過去最高となった一方、「主に女性」は大幅に低下している。

問3 子育てに関してあなたはどのように考えますか？

- (1) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てたほうがよい
- (2) 3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい
- (3) 保育園や幼稚園の送り迎えやお弁当づくりは母親の役目である
- (4) 家事の手伝いは男女平等にさせるほうがよい



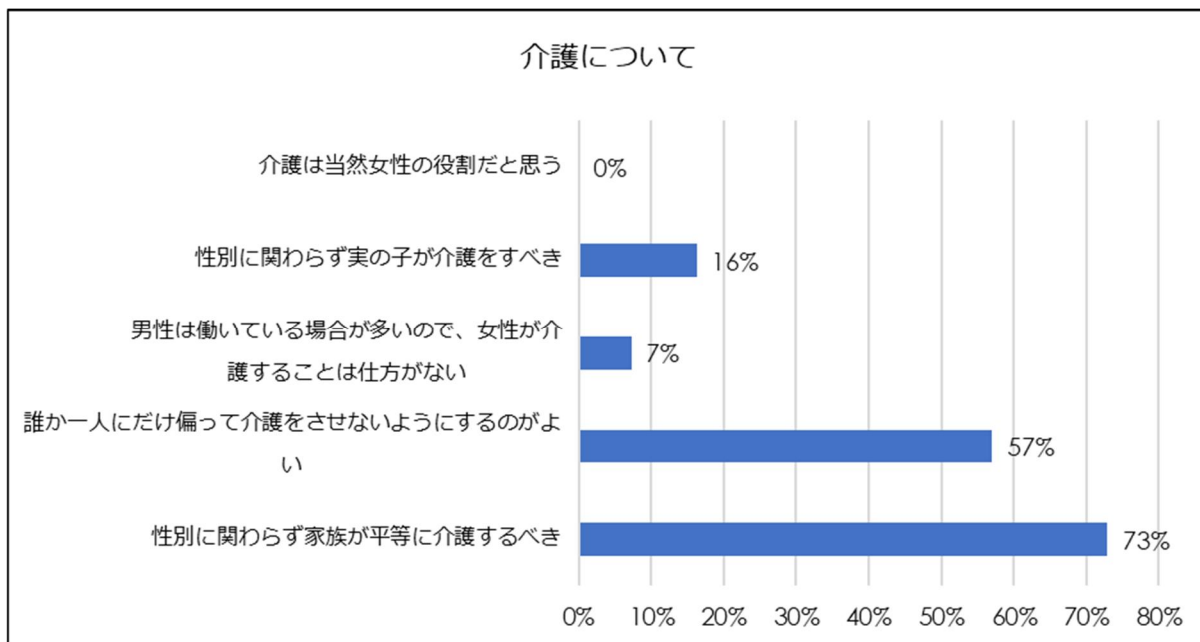
※性別ごとの回答 (%)



「性別に関わらず子どもの個性を尊重して育てた方がよい」が 86%、「家事の手伝いは子どもの性別に関わらず平等にさせる方がよい」が 80%と多く、「女の子は『女の子らしく』、男の子は『男の子らしく』育てた方がよい」が 7%と少数となっており、子育てや家事の役割分担ともに性別による区別をしない子どもへの関わりを重視する人が多数派となっている。

問 4 家族が寝たきりなどになった場合の介護について、あなたはどのように考えますか？

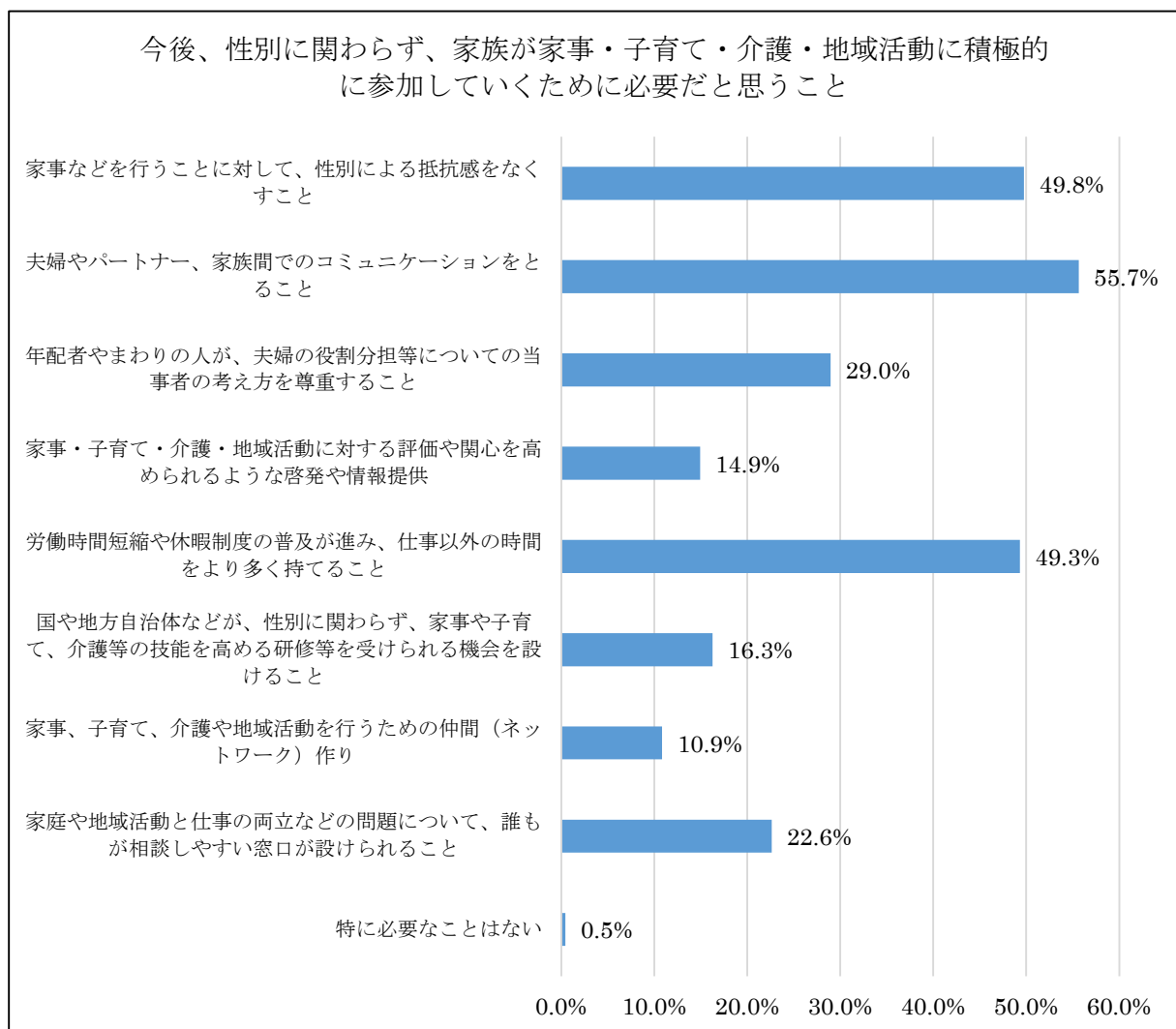
- (1) 性別に関わらず家族が平等に介護すべき
- (2) 誰か一人にだけ偏って介護をさせないようにするのがよい
- (3) 男性は働いている場合が多いので、女性が介護することは仕方がない
- (4) 性別に関わらず実の子が介護をすべき
- (5) 介護は当然女性の役割だと思う



「性別に関わらず家族が平等に介護すべき」が 73%、「誰か一人にだけ偏って介護させないようにするのがよい」が 57%で多数となっているなど、性別にとらわれず、平等な分担と負担の偏りを回避する傾向が見られる。

問5 今後、性別に関わらず、家族が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと

- (1) 家事などを行うことに対して、性別による抵抗感をなくすこと
- (2) 夫婦やパートナー、家族間でのコミュニケーションをとること
- (3) 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- (4) 家事・子育て・介護・地域活動に対する評価や関心を高められるような啓発や情報提供
- (5) 労働時間短縮や休暇制度の普及が進み、仕事以外の時間をより多く持てること
- (6) 国や地方自治体などが、性別に関わらず、家事や子育て、介護等の技能を高める研修等を受けられる機会を設けること
- (7) 家事、子育て、介護や地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作り
- (8) 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、誰もが相談しやすい窓口が設けられること
- (9) 特に必要なことはない



「夫婦やパートナー、家族間でのコミュニケーションをとること」が 55.7%と最も多く、次いで「家事などを行うことに対して、性別による抵抗感をなくすこと」が 49.8%、「労働時間短縮や休暇制度の普及が進み、仕事以外の時間をより多く持てること」が 49.3%の順に多い結果となっている。